

一六年の伝統をもつ

油谷町森林組合協業班

油谷町森林組合（藤井隆一組合長）の協業班は、一年のほとんどを、森林の保育作業で占める。この協業班は、昭和三二年、当時の菱海森林組合造林作業団として誕生した、協業班という名称は昭和四二年の指導により改称したもので、すでに一六年の伝統をもつ、六〇名からなるグループであるが、会員は伐採班（責任者藤井一夫さん）搬出班（責任者磯部



守さん）造林班（責任者福山源一さん）のいづれかに所属し、地ごしらえ、植林、保育、枝うち、下刈り、伐採、搬出等の作業を担当するのが主なる業務である。昨年は、造林四五ヘクタール、保育一七〇ヘクタールを行ったがこれは町有林の外、県林業公社林や、個人からの委託を受けたものであるが、協業班については県で当局のご指導もいたゞき、組合の重点

事業の一つとして運営を行っていただきますが、さらに人員を拡充し、組織の育成強化を図り、業務を遂行したい」と藤井組合長は話している。

写真は福山班長を先頭に、今日も夏山の手入れに向う協業班のみなさん。



農業中の事故をなくしましょう

九月一六日から一〇月一五日まで、「農作業安全月間」です。収穫の秋をむかえ、バインダーや脱穀機等いろいろな農業機械を使う機会が多くなり、それだけに事故が起り易いわけです。去年県下で起った農作業中の事故をみますと、その大半が勤め人やお年寄、婦人などで、占められているのが特色です。事故は、機械に慣れていないことや、日頃の手入れ不足など、ちょっとした不注意からおこります。取りかえしのつかない事故も、使

う人の心掛け一つで防ぐことが出来るものです。農業機械を使うときは、取扱説明書を良く読んで、次のことに十分気を付けましょう。機械の各部分に油をさし、ネジのゆるみはないかなど十分点検し必ず試運転を行ってから作業をはじめましょう。また、作業中の修理や調整は必ずエンジン止めしてから行なうことがたいせつです。路上運転は、交通法規を守り慎重に行ないましょう。お互いに細心の注意をはらって農作業の事故を起さないよう気をつけ、秋をお迎え下さい。

毎月第三日曜日は 家庭の日です

水桶を使う娘のありきやんぶ村岡本 月敵
没日燃ゆ海に尖りて磯天幕松原 以歌
一湾へ窓明け放ち昼寝蟹村田 有弘
運転を覚えしよりのサンングラス岡本 月敵
点滅す灯台下や土用浪藤永 梅雪
追吟中谷 呂雪
水害の一周年きびしき大早
打水の出来る山荘ありがたし
川柳
水飢きん台風でよし雨を待ち
お師匠を足げに出来る旅役者
三味の音に猫は念仏屋根の上
車代借しんで宿とるハメとなり
平川 柳照

町内文芸

油谷俳壇

夏帽を吹飛ばされし長門峡 林 黙水
夏帽子吹かれる早さ追うており 蘭 添水
夏帽突き上げし顔の黒きかな 中原 典女
夏帽子袴脚白き女かな 西村 風生
夏帽を冠り夏帽売っている 大谷 展生

二草吟社
日盛りの病棟静かな時保つ 原田 卜仙
松一本キャンブの脚にとり入れて 天野 未成

九月一日は 防災の日です

九月は台風シーズンで、毎年のように日本のどこかに上陸するか、上陸しなくても大きな被害を残しています。今から五〇年前の九月一日、記録によりますと午前一時五八分四四秒ということになっていますが、当時はラジオもなく、一般の家庭では正確な時計を持っていなかったようですから、そろそろおひるだな、と思つていたころでしょう。

そこへ、グラグラとマグネチュード七・九という大地震が関東地方を襲いました。そのころのことですから、家屋といえば木造が大半です。マグネチュード七・九にあつてはひとたまりもありません。屋根がわらは落ち、家屋はつぶれ、ちようどお屋どきとあつて台所では火を使つていたので火災が起りついで津波の襲来という惨事になりました。

首都東京の通信交通機関はもちろん、ガス、水道、電気等はすべて止まり、新聞もこない日々、人々の心の動揺は、はかり知れませんが、この時の死者は九万一三四四人全壊焼失家屋四六万四九〇九戸と記録されています。

政府は昭和三六年六月一七日の閣議で、九月一日を「防災の日」と決めました。

勿論この関東大震災を記念したものですから、これらの災害についての、認識を深め、これに対する心構えをふだんから準備しようというのがねらいです。

戦争後だけでも大きな災害をもたらした台風は十指にあまり、この九月に集中していますので、特にご注意が肝要です。